

## 「祖父の死から学んだ税金のこと」

福岡市立香椎第3中学校

田代 衣月

今年の六月に急逝した祖父は、税理士だった。どのような仕事をしているのか、話を聞いたことはなかった。だが、仕事部屋には、分厚くて難しそうな本と、たくさんの書類が丁寧に束ねられたファイルが、棚いっぱいには並んでいた。祖父は税金に関わる仕事をしているということは分かっていた。実際にどのような仕事をしていたのか知ったのは、祖父が亡くなった後だった。仕事部屋に一人でこもり、長時間、パソコンとにらめっこしていた祖父の後ろ姿が、今も鮮明に思い出される。

私は、祖父が、個人事業主や株式会社の経営者の方が、国や地方へ納税をするときの相談窓口をしていたことを知った。個人事業主が支払う主な税金である所得税、株式会社の収益に課される法人税を計算し、納税までの導きをしていたことを祖母が詳しく説明してくれた。これまで、私が身近に感じていた消費税・酒税・自動車税・たばこ税などとは全く違った、会社が支払うべき税金というものがあるということを学ぶきっかけとなった。

ある時、お参りに来てくださった方から、「私の会社が倒産をしかけていたところを、あなたのおじいさんが建て直しをしてくれて今があるのだよ。」と、話を聞かせてもらう機会があった。話によると、祖父は会社再生の仕事もしていたことを知ることができた。私は、倒産をしかけている会社を建て直すことができれば、国の法人税の税収アップにつながるのではないかと考えた。もし、そうならば、税理士という仕事は、多方面から税金と関わり、納める人と納められる側の両方に貢献をしている職業であると私は感じた。祖父が教えてくれたのかもしれない。

そして、祖父の急逝で祖母が途方に暮れずに済んだのは、祖父が関わってきた税金のおかげだった。祖母は無職で、心臓の病気の治療で通院をしている。祖父が亡くなると、祖父から加入してもらっていた健康保険が使えなくなった。しかし、区役所の窓口で、すぐに国民健康保険に加入をさせてもらえ、一部の負担で通院を続けることができるようになった。国民健康保険は、加入者が支払う保険料では成り立たず、税金が投入されることで賄うことができていることを祖母が教えてくれた。

祖父の死は、私達の生活が、健康な時も、病気になった時も、更に亡くなった後も、その家族が税金によって支えられていることを学ばせてくれた。私達は、関わり方や形は様々だが、税金と共存していることを身近に感じる事ができる大切な機会であった。これからは、祖父が歩んできたように、税金について深く学び、多くの人の相談窓口として役に立てるような税理士を目指してがんばりたいと考えている。